

新年のご挨拶

本誌に執筆いただいております先生方より
新年のごあいさつをいただきました。



吉川博也氏

『沖縄、生き残りをかけてー』

県難の解決、本土とは異なる外交による可能性

今年沖縄にとつて大変、厳しい年になるが一方で、日本の制約から自由に、そして沖縄の本来の可能性を発揮できる大きなチャンスでもある。それには県民が、県内また国外に対して次のような対応が重要である。

県内では、普天間飛行場の辺野古移設のような、国難ならぬ県難が予想される。これに対して県民が話し合つて（また本土にも働きかけ理

解者を増し）、一致団結して本土政府、政治家、官僚に対峙しなければならぬ。そうでなければ端から切り崩されてしまう。既に自民党政府は、辺野古移設の切り崩しを始めている。

次が外交で、沖縄の風土は本土と異なり、むしろ東南アジアとの課題、問題点を共有することが多い。沖縄は本土とは異なる外交を展開することによって、本来の、そして新たな可能性を発揮できる。本土も、もう一つのある意味でダブルスタンダードな外交政策が使える。

例えば尖閣（魚釣島）問題は、国境・離島政策による力によらない紛争が解決可能だ。それは国と国とは別の、隣人同士が付き合う「生活者の外交政策」だ。

本年も皆様にお世話になります、よろしくお願ひします。



大城真徳氏

『台典から学ぶ経営哲学』

変化の時代への対応

政治の混乱等で今年も見通しのつかない厳しい年になりそうである。しかし、自然の理からすれば悪いことばかり続くことはない。夜のあ

とは必ず朝がやってくるように！
今年是将来良くなるための一つの過程であるとプラスに考え、もし苦しいことがあつても我慢し、充電の機会と考え無理をせず、体力をつ

けながら環境が好転したら走り出しましょう。
「応ずる可からざるの変なし」如何なる変化も

外部環境の所為にして逃げてはいけない。苦し

いときは皆同じである。我慢し、工夫して皆の力を

結果を出せない人は、出来ないのではなく、ただや

ただやらかなつただけである。業績を挙げているところは常にどうすれば出来るか、どんな状況にあつても何か方法はないかと対策を徹底して考え工夫をこらしている。思いは実現する。物事は思わなければ実現しない。どうしてもという強い思いを持つとう。

運は待つだけでは来ない。最善を尽くし、もぎ取る位の執念が必要である。自己規制の意識を払拭し、如何なる境遇にも対応して今年も良い年にしよう。



吉崎誠二氏

『寄留商人』

2013年 好景気の予感

2012年末から、経済・金融関連の指数が好調だ。マスコミは、安倍新総理の経済政策の

策のことを早くも「アベノミクス」と名づけて、煽つて

今年度分として1兆円の補正予算、来年度には10兆円クラスの景気浮揚政策、そして日銀には2%程度のインプレーターゲット策を要請した。こうした予算の一部は沖縄県の各分野にも、もたらされるだろう。

不動産の指数も好調だ。東証REIT指数（上場不動産ファンドの指数）はこのところ、高止まりしている。東証住宅価格指数は2ヶ月遅れなので現在は9月分までしか発表されていないが、これも改善されるだろう。

ちなみに、この東証住宅価格指数がここ10年で安定的な上昇基調だったのは2006、7年のいわゆるミニバブルと呼ばれた時だ。そう、前回の安倍政権の時だった。安倍首相の時は経済が良かったのだろうか？ それともタマタマか？

さて、年末の日本経済はどのようになっていくのだろうか。よい1年を。